

東日本大震災・被災地の復興に向けた生活支援コーディネーターの養成と強化事業

1. 生活支援相談員等の養成（仮設住宅等の支援者のコーディネーション力強化）

申請事業のうちの重要な柱である生活支援相談員研修会を、福島県社会福祉協議会と柏崎市社会福祉協議会との共催で下記の通り開催した。

i) 福島県 市町村社会福祉協議会 生活支援相談等研修会（基礎編） ⇒詳細は資料①参照

	研 修 内 容	講 師 （第1班の場合）
1 日 目	開会あいさつ オリエンテーション	福島県社会福祉協議会 全体進行 日本ボランティアコーディネーター協会
	[講義・演習] 仮設住宅での暮らし 訪問活動の進め方	柏崎市社会福祉協議会 統括生活支援相談員ほか
	研修1日目の振り返り	日本ボランティアコーディネーター協会
2 日 目	[講義] 生活支援相談員事業の位置づけ ・社会福祉協議会の理解 ・生活支援相談員の役割	全国社会福祉協議会 福島県社会福祉協議会
	[講義・演習] 被災者・要援護者の理解と訪問活動の実際 ～訪問に必要な知識・技術・態度 (個別支援)	日本ボランティアコーディネーター協会 筒井のり子（龍谷大学・JVCA理事）
	研修2日目の振り返り	
3 日 目	[講義・演習] 人と人、人や組織のつながりづくり ～市民のボランティアな気持ちを活かして～ (地域支援)	日本ボランティアコーディネーター協会 後藤麻理子（JVCA理事・事務局長）
	応急仮設住宅における防犯対策について	福島県警察本部
	応急仮設住宅における防災及び救急対策について	福島市消防本部
	研修の振り返りとまとめ	日本ボランティアコーディネーター協会

回	期 日	会 場	参加人数
第1班	8月9日（火）～8月11日（木）	福島県 総合社会福祉センター 講堂	47人
第2班	8月31日（水）～9月2日（金）		30人
第3班	9月6日（火）～9月8日（木）		28人
第4班	9月20日（火）～9月22日（木）		23人
第5班	10月18日（火）～10月20日（木）		42人

基礎編の研修風景→



ii) 市町村社会福祉協議会主任（チーフ）生活支援相談等研修会（スキルアップ基礎編）

⇒詳細は資料②参照

対象を生活支援相談員のなかでもチームをまとめ、リーダーシップを発揮する方々に絞り込んだ主任(チーフ)向けの研修会を開催した。テーマは合意形成をキーワードに演習と講義を組み合わせた2日間の研修を行った。

テーマ	期日・会場	講師	参加者
【第1回】合意形成の基本 ＜共催：福島県社会福祉協議会＞	11月18日(金) 福島県男女共生センター (二本松市)	加留部貴行	33人
【第2回】合意形成の実際 ＜共催：福島県社会福祉協議会＞	1月23日(月) 福島県青少年会館 (福島市)	加留部貴行	33人



←↓スキルアップ編の講義とワーク



iii) 市町村社会福祉協議会 生活支援相談等研修会（ステップアップ編）⇒詳細は資料③参照

生活支援相談員を対象に、活動を始めて数か月经過したなかで、各自の実践をふり返り、課題を明らかにするとともに、今後の方向性について話し合った。会場とコースは選択制とし、希望する回・コースに参加していただいた。

	テーマ・内容	講師
午前	<p>【生活支援相談員になって〇か月をふり返る】 不安っぱいのなかでスタートした生活支援相談員の仕事。 〇か月を経過したいま、これまでをじっくりと振り返り、あらためて課題を出し合い、語り合うことにより、活動へのヒントを探した。 自己点検シートによりこれまでの自己の活動評価をするとともに、演習では現在の課題をグループごとに出し合い、整理し、発表した。</p>	日本ボランティア コーディネーター協会 筒井のり子 川内村社会福祉協議会 統括福祉活動専門員 古内伸一氏
午後	<p>【Aコース:物資提供やボランティア活動者をどう活かすか】 各地から寄せられる支援物資や「なにかしたい」「催しものを開きたい」「〇〇を披露したい」などの要望。うれしい反面、困ったなあと感じるケースも。人の志の活かし方を考えた。</p>	日本ボランティア コーディネーター協会 栗原穂子
	<p>【Bコース:仮設住宅等に住む人たちの出番や役割をどう作るか】 厳しい避難生活とはいえ、「助られる」「支えられる」ばかりでは、気持ちが重くなったり、ストレスも溜まる。住民の力を活かしたり、主体的に取り組んだりする機会や場づくりを考えた。</p>	日本ボランティア コーディネーター協会 小原宗一／後藤麻理子
	<p>【Cコース:訪問から見えてきた個別の課題をどう支援するか】 訪問から見えてくるさまざまな生活課題やニーズ。専門機関につながりにくいケースもあれば、つながることを拒まれることも。訪問活動の基本に立ち返り、その進め方を考えた。</p>	日本ボランティア コーディネーター協会 疋田恵子／筒井のり子
	<p>【振り返り・まとめ】 全員が同じ会場に戻って、1日の学びの振り返りをした。</p>	日本ボランティア コーディネーター協会

回	期日	会場		参加人数
第1班	1月17日(火)	いわき会場	いわき市社会福祉センター	28人
第2班	2月23日(木)	相馬会場	相馬市総合福祉センター	22人
第3班	2月24日(金)	福島会場	福島県総合社会福祉センター	25人
第4班	3月22日(木)	郡山会場	福島県農業総合センター	38人

iv) 生活支援相談員等研修評価会議 2012年4月11日(水) 於:福島県社会福祉協議会

共催で開催した研修の振り返りを実施し、カリキュラムと研修内容の修正を行い、2012年度の研修支援継続を確認した。

⇒詳細は資料④参照

2. 避難住民向けのボランティア講座の養成

震災から学ぶ地域の支え合い、いざという時お互いを支え合う事のできる地域づくりをめざして、避難住民、地域の方達を対象に福島県社会福祉協議会、平田村社会福祉協議会、南会津町社会福祉協議会との共催で公開セミナーを下記の通り開催した。 ⇒詳細は資料⑤参照

	内 容	講 師 等
平田村	開 会 講 演 「東日本大震災のボランティア活動から見えたものとは…」	講師：滋賀県高島市社会福祉協議会 地域支援課 課長 井岡仁志氏
	シンポジウム 「ひとりにしない、させないぞ。災害に備えて つながりづくりを考えよう」 質疑応答 閉 会	〔発表者〕 平田村ボランティアセンター運営委員会 委員長 遠藤カツヨ氏 山形県鶴岡市第4学区社会福祉協議会 事務局長 岩浪武司氏 〔進行役〕 高島市社会福祉協議会 地域支援課 課長 井岡仁志氏
南会津町	開 会 講 演 「震災から学ぶ 支え合いの地域づくり」	講師：群馬県榛東村(しんとうむら) 社会福祉協議会 事務局長 小野関 芳美氏
	体験事例発表 「住み慣れた地域を離れても・・・ 私たちが、心を寄せていること」 質疑応答 閉 会	〔発表者〕大熊町ボランティア 連絡協議会 岡部 タカ子 氏 根本 友子 氏
西会津町	開 会・あいさつ 講 演 「震災から学ぶ 支え合いの地域づくり」	講師： にいがた災害ボランティア ネットワーク 事務局長 李 仁 鉄 氏
	体験事例発表 「気になるあの人に聞いてみよう！ わたしたちが身近にできること」	〔発表者〕 ●ボランティア活動者(只見町) 渡部 和子 氏



↑
南会津町会場



↑
西会津町会場

3. 新たな活動者層発掘のためのボランティア講座の実施

⇒詳細は資料⑥参照

テーマ	期日・会場	講師	参加者
【ボランティア講話】 「ボランティアについて」	2月28日(火) 二本松市立東和中学校 (二本松市)	日本ボランティア コーディネーター協会 栗原穂子／岩浪武司	1年生 70名 2年生 80名
【ボランティア講話】 「ボランティアについて ～はじめの一歩～」	3月23日(金) 福島介護福祉専門学校 (二本松市)	日本ボランティア コーディネーター協会 栗原穂子	7名



東和中学校



福島介護福祉専門学校

＜学生のネットワークを継続的に支援＞

⇒詳細は資料⑦参照

ふくしま復興支援学生ネットワークの活動支援を行った。

(福島県内の大学や専門学校の学生が、被災者支援などのボランティア活動を全県展開するため、学生の力を結集する連携組織として「ふくしま復興支援学生ネットワーク」を設立) 月1回の定例会への参加と助言活動を行った。



ふくしま復興支援学生ネットワーク活動報告会の風景

期日:2012.3.23(水)会場:パセナカ misse(福島市)

4. “福島いま” についての全国への発信

福島県災害ボランティアセンターが発行する『福島県災害ボランティアセンター通信（はあとふる・ふくしま別冊）』（タブロイド判・表裏）の編集に参加し、最終号までの発行を支援した。

⇒詳細は資料⑧参照

本会が年3回発行している広報紙『Co☆Co☆Net』第32号、第34号において、本会の福島での支援活動の報告を行い、会員以外の関係者にも広く配布した。

第32号(9月11日)特集:

東日本大震災被害に対するJVCAの取り組み

第34号(12月28日)特集:

被災地のコーディネーション力をアップ!

▼第20号表面



◎特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会[福島事務局]の設置

本事業を推進するために、福島県内で活動する非常勤スタッフを配置し、福島市渡利地区に事務所(レオパレス)を借り上げた。研修会を企画・運営するにあたっては、福島県社会福祉協議会(福島県災害ボランティアセンター)との連携により進め、生活支援相談員活動の活動状況や研修ニーズの把握を行った。

▼福島支援プロジェクト実施体制(事務局有給職員のみ)															
氏名	月	配属	企画・準備	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月			
栗原 穂子		福島		[Blue bar indicating activity from August to April]											
秋山 みち		東京				[Blue bar indicating activity from October to March]									
天野 芳昭		東京									[Blue bar indicating activity in March and April]				
後藤麻理子		東京/福島	[Blue squares]	[Blue bar indicating activity from August to April]											

本プロジェクトの進行管理は、理事会及び月1回開催する運営委員会において行い、研修の体系作成とプログラム開発については、法人内に設置した東日本大震災・福島県災害支援検討チームと講師陣が協働して行った。

■福島での活動をふり返って

(福島現地スタッフより)

[生活支援相談員への研修機会の提供]

仮設住宅等に移られた方の生活を支援する「生活支援相談員」(避難元、避難先社会福祉協議会雇用 171 名)を対象に実施した研修では、今回の採用で初めて社会福祉協議会、地域福祉に関わった方が多く、基礎編の 3 日間の研修で「生活支援相談員」活動に向けての心構えが出来て行く様子が見られた。活動を始めて概ね 6 ヶ月経過のステップアップ編の研修では、日頃の活動から見えてくる深刻な問題についての事例検討等、その時々に必要な活動のスキルを学ぶ事ができたとの感想を得た。

また、各社会福祉協議会の生活支援相談員のチーフの方向けの 2 回の研修では、合意形成について理論と実践を学んだ。避難者対応と同じように同僚である生活支援相談員同士、ももとの社協の職員との連携など様々な問題を抱えている方も多く、研修後のアンケートには「連携」についての悩みが見られた。そのニーズにこたえた形での研修には、参加した各チーフの方からは、日頃の悩みに対して手法を学べたことが良かったなど感想を得た。平成 24 年度は、前年度の研修の成果をふまえて、福島県社会福祉協議会が研修の継続を決めている。日本ボランティアコーディネーター協会としては今後も研修企画、講師派遣等への支援を継続していきたい。

[福島で暮らす住民に向けた地域づくりセミナーの開催]

平田村、南会津町、西会津町の 3 か所で開催した公開セミナーは、以前は県社協がシルバー世代の方向けの講座を実施していたものを震災後の開催として、震災から学ぶ地域の支え合いをあらためて考える場として、県社協、地域社協の方と日本ボランティアコーディネーター協会と一緒に話し合い協働で開催した。各会場とも多くの方から参加をいただき関心の高さを感じた。南会津町で開催したセミナーでは、被災者である民生・児童委員の方の体験事例の報告があり、いざという時お互いを支え合う事のできる地域づくりについて考える貴重な機会になったと参加者からの感想があった。

[子どもたちへのボランティアについての理解促進]

二本松市立東和中学校での「ボランティア講話」については、平成 24 年度からボランティアの授業を導入するにあたり、事前の研修をしたいという事で相談があった。震災後にテレビ等ではボランティアについて報道されるが、被災県に住む東和地域は、実際の被害も少なくボランティアについてふれることはなかったとか。210 名の全校生徒の中でもボランティア活動経験者はほとんどいないという事にも危惧をもっているとの話だった。2 年生、1 年生とそれぞれ一時間近く講話と簡単な演習を取り入れたものを実施した。

[大学生・専門学校生の自発的な活動を側面から支え、応援]

ふくしま復興支援学生ネットワークには、月一回の定例会へ参加した。正式にネットワークが発足したのは昨年7月からで、県内の11の大学、短大、専門学校が参加している。毎回の定例会では、各大学の一ヶ月間の活動報告と情報共有の場になっており、毎回最後に助言を求められて、気がついたことなどを話した。3月21日に開催した活動報告会には、企画、準備の打ち合わせから入ったが、時間的な制約のある学生の活動ということで、一時は開催ができるのかという不安もあった。当日は多くの方の参加があった。福島県内の学生と関わりを持ちたいと考える他地域の団体、個人の参加者もあった。JVCA福島事務局としては、県内、全国への広報活動などを担った。学生自身にとっても、サポートしているJVACにとっても、あらためて学生の活動をふり返る機会と今後の活動に向けて共有する時間となった。

ふくしま復興支援学生ネットワークに関わったことを契機に、福島介護福祉専門学校の代表の方から、震災後、復興にむけて進めて活動について相談を受けた。仮設住宅での活動では、避難者の方との関係性もでき順調に活動を続けてきたが、活動をふり返る時に悩む事がある。そもそもボランティアとは、何なのか。よくわからないままに活動を続けてきた気がする。一度ボランティアについて学ぶ場が欲しいと思っていると相談を受け、ボランティア活動の勉強会を学生ネットワーク報告会の次の日に専門学校で開催した。メンバー6人と顧問の先生7名と「ボランティア」についてはじめの一步と題して講話とワークを実施した。参加者からは後日ボランティアについて学ぶことができ有意義だったとの感想をいただいた。2年制の専門学校だが、世代交代も出来ており、今後の活動への弾みにもなったと思う。

[まとめにかえて]

約半年間、福島に住み、福島の人たちの目線で、県内で起きている様々な事例を感じたいと思い、日々の活動を続けてきたが、震災とその後の原発事故などによる住民を取り巻く状況と心身の負担は予想以上に大きく、複雑なものがあった。

福島には、震災以前から縁があって、大好きで大事な場所であったが、今回活動をしてみて、福島県内の様々な方とふれることで、人柄の良さ、温かさを感じることができ、ますます福島という土地が好きになった。原発のこともあり、福島の復興はまだまだ道のりは遠いもののように思う。今後も日本ボランティアコーディネーター協会の活動を通して、福島の復興の一助になるべく活動を継続していきたいと思う。

(栗原 穂子)